

2015年5月26日、パリ

フランスにおける企業倒産状況(2015年4月末) 数値は引き続き徐々に改善:前年比マイナス2.7%

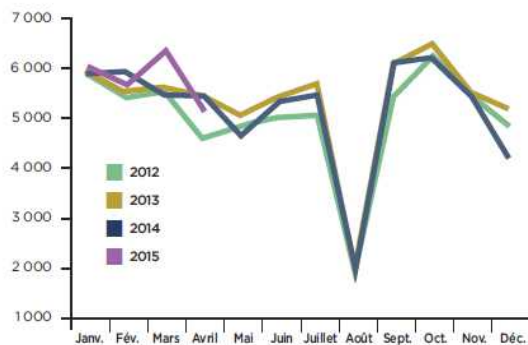
2014年によく表れた改善傾向が続いている。1~4月に当初表れた企業倒産の増加は、一つには司法システムにおける労働争議により昨年末の数値が不自然に低くなったことを相殺するものだが、5月には同じ動きがまた表れている。

商事裁判所におけるストライキに伴い若干の不安定さがあるものの、減少傾向は続いている。

2015年4月末までの企業倒産件数は、2014年末時点に近いペースで減少しており、前年比マイナス2.7%となっている(2014年はマイナス2.9%)。6万2473件の企業倒産による取引先への損害は39億ユーロ(マイナス16.6%)であり、17万4786名(マイナス4.6%)の雇用が失われる恐れがある。この傾向は特に、石油価格の低下と企業の利益率改善に伴う家計消費への一時的な効果を反映したものである。

2015年1~4月のデータでは倒産件数が1.6%増加しており¹、懸念すべきものに見えるかもしれないが、この一時的な悪化は、2014年12月に商事裁判所を巻き込むストライキが生じた結果として

Business insolvencies per month



Sources: Scores & Décisions, Coface

倒産の登録が遅れたことによるもので、2015年3月にプラス16%という不自然な増加が生じるに至ったものである。²

コファスのエコノミスト Guillaume Baqué は次のように述べている。「第2四半期には、エネルギー価格が再び上昇することを踏まえて、消費の水準が落ち着くと思われます。それ以外については、穏やかな回復のおかげで企業設立件数³も増加していることから(2015年5月に前年同月比2.8%増)、これから2015年末までのあいだに倒産件数が増える結果になるはずです」

倒産件数の多い上位3部門:金属、建設、個人向けサービス

売上高250万~1000万ユーロ規模の企業では倒産件数が急減している一方、より大規模な企業(売上高1000万以上)では年初に倒産件数が上昇したものの、4月には減少が見られた。

売上高ベースによる倒産規模上位100件で見ると、3つの部門が特に目立っている。すなわち、金属(全体の15%)、建設(同17%)、さらにこの順位に初めて登場した個人向けサービス(同5%)である。また、調査対象とした11部門のうち、倒産件数が上昇しているのもこの3部門である。

¹ 2014年同期との比較。

² 2014年3月との比較。

³ 零細企業を除く。



P R E S S R E L E A S E

倒産件数最多のイル・ド・フランス地域で状況が悪化

フランス国内の地域別の企業倒産状況にはかなりのムラがある。6 地域では明確な改善が見られ、倒産件数が5%以上も減少した。特に顕著なのがアキテーヌ(マイナス10.2%)、リムザン(マイナス8%)である。

倒産件数の増大が記録されたのは5地域のみであり、その幅は最高でアルザスの5.1%、最低でイル・ド・フランスの0.3%である。イル・ド・フランスはフランス全土の倒産件数のうち19.7%を占める。アルザス及びイル・ド・フランスにおいて最大の打撃を受けているのは建設部門であり、特にイル・ド・フランス地域の民間住宅建設企業では倒産件数が10.3%も増加した。

連絡先:

ジョナタン・ペレズ - Tel. 03 5402 6108 - jonathan.perez@coface.com

コファスとは

取引信用保険で世界有数の企業であるコファス・グループは、国内及び輸出取引において、取引先の債務不履行のリスクからお客様を守る為のソリューションを、全世界の企業に提供しています。2014年には、4,406名のスタッフのサポートによって、コファス・グループは14億4100万ユーロの連結売上高を計上しました。98か国における直接的及び間接的なプレゼンスによって、コファスは40,000を超える企業の200か国以上にまたがる取引をカバーしています。コファスでは、企業の決済動向に関する独自の知見と、350名のアンダーライターの専門知識に基づいた、160か国に及ぶカントリー・リスク評価を四半期毎に発表しています。

フランスでは、コファスはフランス政府の輸出保証の管理をしています。

www.coface.jp

コファスSAはユーロネクスト証券市場のA部にて上場しています。
ISINコード:FR0010667147 / ティッカーシンボル: COFA

